

第 81 回 防災カフェを開催しました。



ぼうさい BOUSAI 防災 ～なじめる防災への道～

日時：2023年7月21日（金）18時00分～19時30分

ゲスト：岩佐 卓實 さん

（滋賀県地域防災アドバイザー・NPO 法人しがいち防災研究所理事長）

ファシリテータ：増田 晶子 さん（ラジオパーソナリティー）

難しい話は嫌だ、聞く暇がない、私は災害とはずっと無縁だ、うちの街は自主防災組織が万全だ・・・消防、市職員、自治会を経験し、多くの方々から様々な声を耳にしました。阪神淡路大震災から28年、東日本大震災から12年、「地震を知らない子どもたち」は大人になって社会を支える時代に差し掛かります。そんな危なっかしい現状に備える気持ちをもたらすよう、「ぼうさい」を楽しく面白く伝え広めたいとの思いで、これまでの防災手法についてお話ししました。

防災を「ぼうさい」、「BOUSAI」にしようとした理由

堅いイメージの漢字の防災、わかりやすいひらがなの防災、外国の方にもわかっていただけるローマ字の防災。多くの人になじめる防災にしたいという思いで活動を続けてきました。約5年、延べ71団体の方々、**ゲスト：岩佐 卓實 さん** 人数にして4139人の方から、防災というのは難しく、近寄りづらい。防災訓練があるらしいが町内会からの呼びかけもない。何をすればいいのかわからない。日本語わからないからどうすればよいかみたいなこともよくお聞きしました。



きっかけはおにぎりデー

私は以前、消防職員をしていました。草津市、守山市、栗東市、野洲市の4つの市を消防本部が管轄していましたが、地震の記憶を風化させないように、平成17年から毎月17日に4市一斉に警戒サイレンを鳴らして、地震のことを思い出してもらおう取り組みを始めたのですが、苦情もあり中止することになり、それに代わる良い取り組みはないかと悩んでいました。

その頃、南草津駅周辺は次々とマンションが建設されていました。そこにお住まいのお母さんたちが、たった1人で小さな子供を守らないといけな。地震が起こったり、大雨が降ったりしたときは、誰に頼ればいいのかと心配されていました。その人たちのサークルに講師として呼ばれて、防災についてお話をしました。お母さんたちから、17日は毎月来るのだから、17日はおにぎりを



食べながら、地震あったんやな。非常食でおにぎりが出るんだなということをみんなで考えることになり、毎月17日はサイレンに変わって、防災おにぎりデーを始めました。かわいいおにぎりをつくったり、賛同してくれた会社がポスターを作ってください、あちこちに貼り出しました。

草津市役所の職員食堂の店主さんも市役所で長いことお世話になったので、恩返しがしたいと、17日には防災おにぎり定食を奥さんと2人で一つ一つ手作りで100食ほどつくっていただきました。

最初はこんなに多くの人に受け入れられるとは思いませんでした。どのようにしてこうなったかを南草津駅前にある草津未来研究所に研究していただき、『防災草津モデル ゲストから主人公へ』という報告書にまとめてもらいました。初めは招かれて防災行事に参加しますが、次は自分が主人公になって、次のゲストを迎える。こういうやり方は易しくて入り込みやすいやり方であることがわかってきました。

防災応援隊もつくりました。市内の8つの団体が一緒に防災について、自分たちの待つ利点を掛け合わせていくことにしました。防災買い物は百均のお店に行って、決められた時間の中に防災に必要なものを買い集めてくる取り組み。また夜何時になるかわかりませんが、突然LINEで今から停電です、今から断水です、トイレ使えませんという連絡が来るゲリラ防災などです。市民防災指導員、草津市ボランティアコーディネーター会、損害保険協会、防災博士、防災士会、防災おにぎり委員会、立命館大学のPDSサークル、地域防災アドバイザー、防犯防災研究会などの方たちと会議をもち、それぞれの立場や経験を活かして多くのヒントを得ました。

1月17日には、草津市役所のロビーで、コンサートをしました。参加者は約200人でした。防災おにぎりデーの歌もつくりました。犬の散歩をしているときに、突然メロディーが思い浮かびました。一緒に活動している方の友人がピアノの先生をされていたので、ピアノ伴奏に変えてもらい、でき上がった原



曲を、ピアノの先生の友人の方がブラスバンドのパート譜にしてくださいました。草津中学校のブラスバンド部に協力してもらって、部活動の合間に部室でコーラス部隊の人と一緒に何回か練習をしました。その成果がロビーコンサートになりました。コンサートには、阪神淡路大震災を経験した神戸の方、大阪の西成で子供食堂をなさってる方、その他いろんな方が来てくださいました。近所の幼稚園の子供たちも、歌の練習と振り付けの練習をして参加をしてくれました。おにぎりデーの歌は、振り付けもあってとてもかわいいです。YouTubeで防災おにぎりデーの歌と検索すればどなたでもご覧いただけます。

市民活動団体が主催・協賛する防災イベントが続々と

市は何をしてくれるのか、自治会は何をしてくれるのかでは、防災は自分のところに近寄ってきません。自分たちでやれることをやろうという方法で続々とイベントが行われるようになりました。

いくつか紹介します。まずは地震のときに安全な行動をとるシェイクアウト訓練です。訓練の日に、草津川の跡地公園の出会い広場で、ペット防災のブース、非常食のテント、ボーイスカウトの方たちによるロープワーク、FM草津さんのサテライトなどいくつもブースやテントができました。散歩する人たちが次々とやってきてくれました。いろいろな団体が自発的に取り組んでくださり、緩やかな防災活動が展開されました。

また一つひとつのマンションには防災組織はありませんが、マンションに住んでいる仲間はLINEで繋がっているという南草津マンション防災委員会の皆さんは、困ったときには助け合おうねということから活動を始められました。自分たちのまちを自分たちで歩いて、何が役に立ち、何が危ないのかを見に回りましょうという防災散歩をされています。またシナリオから出演まで、自分たちで組み立てた防災コンサートもされました。

美味しい非常食をつくろうという料理教室もできました。非常食はアルファ化米や乾パンなど硬くて冷たいものばかりではありません、家にあるそうめん、マカロニ、ツナ缶などをビニール袋でうまく調理をすることができます。非常食も美味しいのです。

ビブリオバトルも行いました。この本はこんなに優れているということをみんなの前で発表し、最もうまく伝えた人がチャンピオンになります。南草津の図書館で第1回目のビブリオバトルが行われたときに、テーマを防災にしてもらいました。なんと当時小学一年生のMくんがとてもうまく防災の本の説明をしてチャンピオンになりました。

防災って、おもしろいやん

防災はおもしろくないといけません。易しくないといけません。楽しくないといけません。硬い話から防災に入っても、なかなか心に響きません。

新聞紙でスリッパ作ってみよう、紙コップ作ってみよう、ダンボール箱で簡易な椅子を作ろう、命を守るために役立つロープワークを勉強してみようというようなこともやりました。新聞スリッパづくりでは、子供たちは何故このようなものをつくるのと聞きます。体育館に避難すると、冬は底冷えしますので、冷たい足から冷たい血液が戻ってくると心臓に負担がかかります。だから足元を冷やしてはいけません。新聞紙を2枚重ねにしたスリッパなら、保温性もあり、枕元や非常用袋に入れたらいいと知らせています。

水消火器を水鉄砲のようにして楽しんだり、ダンボールで迷路をつくり、姿勢を低くして、そして口と鼻を手で押さえ、煙のときに脱出するのは、このような姿勢だよということを楽しんで覚えてもらいました。

500CCのペットボトルを使って心肺蘇生の練習もしています。ペットボトルの圧力は胸骨圧迫



するときに必要な力とほぼ同じです。実際に人形を使ったり、トレーニングキットを使って心肺蘇生の訓練をやったことのある人はあまりいません。これぐらいの力がいるのですよということを小さな子どもやお母さん、一般の方にも知っていただくのに、ペットボトルの心肺蘇生は楽しく取り組み最適です。ドラえもん歌か、もしもし亀のリズムに乗せると、1秒間に1回から2回、1分間に120回ぐらい、正しくリズムカルで行えますが、同時にとてもしんどいということもわかっていただくことができます。

たまには、本気モード

立命館大学の地域連携講座で、学生たちに災害のことについて話してほしいという依頼をいただきました。ある女性の方にゲストスピーカーとして出ていただきました。自閉症スペクトラムのお子さんのお母さんです。避難所に連れて行くことが困難で、経験のない環境に子どもをおくことができないので、避難のあり方や避難所のあり方について切々と訴えられました。学生たちは授業を通じて、遠い世界の防災のことをすごく身近に感じてくれるようになりました。

またあるマンションで、消防車も救急車もはしご車も来ない消防訓練を行いました。20Lのポリ缶を2缶持って1階から10階の屋上へ運ぶ訓練をしました。それから、上でキープできない汚水を持って下に運びます。マンションに入っている飲食店や薬局などのお店の方たちと非常時にどんなことで助け合いができるのかを話し合いました。

更に今年4回目になると思いますが、聴覚障害者協会の依頼で、聴覚障害の方にも防災について体験や訓練にも取り組んでいます。全く目が見えない、全く耳が聞こえない方と一緒にロープワークをしました。私の声はその人には届きませんが、障害があっても、できることを探していくことが大切だと通訳の方を通じてわかりました。

防災活動は、人を繋ぐ有効なツール

子供たちによる手づくりの防災訓練では、紙製のロケットをつくりました。阪神大震災から28年目の1月17日の直前でしたが、28機のロケットを空に打ち上げました。この

ロケットの胴体に防災の思いを紙に書いたり、折り紙を貼ったりしました。子どもたちは元気に楽しく、防災活動に取り組み、そして成長していきますが、子供の頃にあんな経験したなっていうことを、これからも広めていきたいと思います。

高齢者の方にも、地域で自主防災に励んでおられる方にも、こういうところからスタートすると、意外と皆さん耳を傾けてくれるということを知ってほしいです。漢字で防災、それはなかなか伝わりにくいです。ひらがなでいこう、そして階段を登るようにと進めていきました。これからも、多くの自主的な市民活動団体の方と防災の輪を広げて、まとめていければと思います。

もし一緒にやってみようと思われた方は、QRコードを読み取っていただいて、フェイスブッ



クでご覧いただけたらと思います。毎年同じようなことしてる、参加する人もいつも一緒、頭を悩ませておられるのが現実だと思いますが、やり方はいろいろです。易しいところからスタートしたら、少しずつ理解が深まって、次のステップに進めるのではないかと思います。防災活動は、人を繋ぐ有効なツールになります。

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問 心肺蘇生で活用されているペットボトルの大きさと硬さを教えてください。

答 500mL入り円筒形のペットボトルのふたを閉めて使います。柔らかい材質のペットボトルがありますが圧力が出ません。

問 おにぎりでデーですが、どの時間帯に何名ぐらい参加されていますか。

答 まったく集まっていません。それぞれの家で、好きな時間に1日1回おにぎりを食べています。フェイスブックにおにぎり食べたよとか、ついでにこんなことしたよと投稿して他の方に伝えてもらっています。この活動が受け入れられたのは、自由な時間におにぎりの写真を投稿してください、それであなたの防災活動はOKですという形だからだと思います。なんと8月には、100回目、100ヶ月目を迎えます。

問 楽しい防災の取り組みを続けてこられて少しずつテーマや課題も見えてきたのではと思いますが、どんなことがありますか。どういう繋がりをつくれば良い流れをつくれると思われませんか。

答 自治会組織や大きくした学区の組織も10、20年前とかなり変わってます。既存の団体だけでやろうとすると、防災は広がりもないし、前にも進めません。市民団体の皆さんに声掛けをして、緩やかな防災組織を目指していく。初めから100人集めるのではなく、隣近所の人3~5人くらいで、自分たちがやりたいこと、自分たちが課題とすることに取り組みませんかという声掛けで進めていけば、少しずつ前進できるかなと思います。

問 夏祭りなど祭りを楽しむために人が集まる場所で楽しく防災の知識などを伝えたいと思っているのですが、いいアイデアはありますか。

答 掛け合わせることが大事です。楽しむだけでなく、そこで何か勉強する機会があったらいい。新聞紙からコップをつくり、ビニールをかぶせてジュースをもらいにいく。ジュースほしい人は、新聞紙で紙コップつくってくださいなどです。この行事とあの行事を掛け合わせていくと、大きな行事になります。消防署から水消火器を借りてきて、ストラックアウトの的あてもできます。楽しめるのではないかと思います。

岩佐さん、増田さん、参加者のみなさん ありがとうございました。



ファシリテータ 増田 晶子 さん